

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 2月 26日

【評価実施概要】

事業所番号	0172500233		
法人名	有限会社 イマージュ		
事業所名	グループホーム 夢		
所在地	余市郡余市町黒川町145番地6 (電話) 0135-21-6222		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年2月25日	評価確定日	平成22年3月30日

【情報提供票より】 (平成22年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	16人, 非常勤 1人, 常勤換算 16.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費21,000円 暖房費(10~5月) 8,000円	
敷金	有( ) 円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有( ) 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (2月 25日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	65 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	余市協会病院、済生会小樽病院、小嶋病院、林病院、よいちクリニック他
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲に大きな病院や高校があり、豊かな自然環境の中に位置する2階建て2ユニットのグループホームです。自己評価、外部評価の各項目に高い意識で取り組み、介護計画は、モニタリングやカンファレンスに基づき、段階を踏んで利用者者に合ったプランを作成しています。利用者者と職員、職員同士の信頼関係が築かれて明るく笑顔の絶えない生活が送られており、外出行事やレクリエーション活動、自然との触れ合い、地域の児童や中学生などとの交流なども活発で、利用者の楽しみと変化ある様子がホーム便りや写真、近況報告、年に1度作成するDVDで家族に伝えられています。運営推進会議では、事前に家族の要望を聞き取って運営に反映しており、地域の方々から意見や情報もいただいています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4) 昨年の外部評価では「取り組みを期待したい項目」はありませんでしたが、利用者へのサービス向上に向けて継続的に取り組んでいます。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は項目毎に職員で分担し作成しており、全体会議で意見交換した後で管理者が取りまとめています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヵ月に1回開催され、町や地域包括支援センターの職員、広域連合会の方々や町内会の班長、複数の利用者家族が参加しています。事前に家族の要望を収集して回答したり、運営報告、外部評価、年間行事などを話し合いサービス向上に活かしています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議では事前に家族の要望を収集し、真摯に回答して、ホームの運営に反映しています。玄関にはアンケートと回収箱を設置しています。また重要事項説明書にはホームおよび町、国民健康保険団体連合会の苦情・相談受付窓口を明記しています。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日頃から散歩で会った住民の方々と挨拶を交わしています。町内会に加入し、清掃活動などに利用者と共に参加しています。また近くの保育所の運動会を利用者と見に行ったり、中学生の職業体験実習を受け入れています。大学生の和楽器のサークルにも演奏を披露しにホームに来ていただいています。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中で「地域と共に生きがいのある生活環境」を目標に掲げており、地域密着型サービスとしての理念を確立しています。理念は2年ほど前に職員で話し合っ、地域密着型サービスとしての理念に改めています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や食堂や職員休憩室などに掲示し、朝夕のミーティングで唱和しています。また、理念を毎月ホームだよりに掲載し、家族とも共有しています。職員は理念の実践に向け日々取り組んでいます。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日頃から散歩で会った住民の方々と挨拶を交わしています。町内会に加入し、清掃活動などに利用者と共に参加しています。また近くの保育所の運動会を利用者と見に行ったり、中学生の職業体験実習を受け入れています。大学生の和楽器のサークルにも演奏を披露しにホームに来ていただいています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は項目毎に職員で分担し作成しており、全体会議で意見交換した後で管理者が取りまとめています。昨年の外部評価では「取り組みを期待したい項目」はありませんでしたが、利用者へのサービス向上に向けて継続的に取り組んでいます。		

余市町 グループホーム 夢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月毎に開催し、町や地域包括支援センターの職員、広域連合会の方々や町内会の班長、複数の利用者家族が参加しています。事前に家族の要望を収集して回答したり、運営報告、外部評価、年間行事などを話し合い、サービス向上に活かしています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が参加する町のケアマネージャー連絡協議会に町の職員も参加しており、相談できる関係を築いています。また、要介護更新認定調査に町の職員が来所し、介護に係る情報を得ています。ホームの様子を紹介するDVDやホームの広報誌も町に持参し報告しています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に暮らしぶりを報告しています。また、毎月ホームだよりを作成し、利用者や職員の紹介も行なっています。利用者の近況報告や写真、預かり金報告と共に家族に郵送しています。また、毎年ホームの生活を伝えるDVDも作成し家族に配布しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では事前に家族の要望を収集し、真摯に回答して、ホームの運営に反映しています。玄関にはアンケートと回収箱を設置しています。また重要事項説明書にはホームおよび町、国民健康保険団体連合会の苦情・相談受付窓口を明記しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどなく、また離職が少なくなるよう、職員の話聞きストレスや悩みの緩和に努めています。退職者がある場合は、退職理由によって伝え方を変えたり、職員の引継ぎを適切に行ない、利用者のダメージを防ぐよう努めています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会やケアマネージャー連絡協議会の主催する研修に職員が交代で参加しており、各職員が年に数回の参加機会を持っています。管理者は各職員の研修参加状況を把握して調整しています。また、ホームの全体会議でも勉強会や研修報告が行なわれています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は町のケアマネージャー連絡協議会に参加し同業者と交流する機会を持っています。また、職員も町のグループホーム連絡協議会の各種研修会に参加し、事例発表会などの場で他のグループホーム職員と交流する機会があります。今後は他のグループホームと相互の見学会も企画しています。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前になるべく利用予定者にホームを見学していただいております。家族にもホームのDVDを見ていただいたり、ホームの説明を十分に行なっています。利用開始後も家族に利用者の好きなことを聞き、なるべく早く利用者がホームに馴染むよう工夫しています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に料理の味付けや材料の切り方、畑の作物の育て方、昔の地域の話などを教えていただいております。入浴やトイレ介助の際に「ありがとう」といった感謝の言葉を掛けていただくなど、お互いに支えあう関係を築いています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に家族から利用者の大まかな情報をいただいて、日常のコミュニケーションの中でホーム独自に利用者の思いや意向を把握しています。把握した利用者の情報は個人記録に記載し、カンファレンスや申し送りでも共有しています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族からの情報や要望をもとに暫定プランを作成し、その後はケアカンファレンスにてモニタリングを実施し、ケアチェック表、ケアプランマップを作成した上で期間3カ月の介護計画と日課計画表を作成しています。介護計画は家族に説明され、署名・捺印をいただいています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に応じて3ヵ月または6ヵ月毎に介護計画の見直しが行なわれ、利用者の状況に応じた見直しも実施されています。利用者の記録から支援経過・計画評価を作成し、モニタリング、ケアチェック、ケアプランマップを経て介護計画が作成されています。カンファレンスでの検討内容も記録・整理されています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院や、買物、好きなものの外食への外出支援を行なっています。訪問理美容を利用したり、要望により美容院への送迎も行なっています。家族の宿泊希望があれば寝具や食事を提供しています。系列のグループホームと合同でお祭りや行事を行なっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による2週間に1回の往診を受けており、24時間体制で連絡が取れるようにしています。かかりつけ医の受診支援も行なっています。受診結果は電話や文書による近況報告にて家族に適切に報告しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期における生活を医師、利用者、家族と話し合い、ホームのできる範囲を提示し、方針を職員で共有しています。「健康管理および重度化した場合並びに看取りの指針」を作成し、必要に応じて家族と取り交わしています。指針は、医療連携加算の導入に合わせ全家族と取り交わす方針としています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを尊重し、普段の言葉掛けやトイレ介助に気を配っています。個人記録等も適切に保管しており、個人情報の管理も徹底しています。また、面会簿は単票形式にしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者や家族から収集した情報を参考に、その人らしい生活ができるよう、ホームの都合を優先することなく体調や希望、ペースに合わせた生活支援を行なっています。起床の時間、食事やお風呂の所要時間なども利用者のペースに合わせています。		

余市町 グループホーム 夢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や食器洗い、食器拭きなど、利用者ができることを手伝っていただいております。ホームの畑で取れた野菜を使った料理を作ることもあります。また、嗜好調査をメニューに反映しています。職員が利用者と楽しく会話しながら食事をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日を一応決めていますが、午前・午後とも入浴可能で、その日に入浴を希望しない場合は次の日の入浴も可能です。利用者が週2回程度入浴しています。入浴剤を入れたり、ゆず湯にしたりして入浴を楽しめる工夫をしています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や後片付け、畑仕事、雪かき、廊下掃除など、利用者が役割を持って手伝っていただいております。トランプや室内ボーリングを楽しんだり、計算や漢字の書き取りをする利用者もいます。ホーム内での文化祭や茶話会、クリスマス会などの楽しみごとにも豊富です。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場は毎日のように散歩や畑仕事、外気浴を楽しんでいます。買物や喫茶店にも出かけています。また、年中行事も多数企画され、花見や果物狩り、お祭り、保育所の運動会、ショッピングセンターへ外食などに出かけています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を理解し、玄関は夜間のみでの施錠としています。玄関内側にセンサーを設置し、ホーム内でも外出が把握できるようにしています。外出がある場合は、職員が一緒について見守るようにしています。		

余市町 グループホーム 夢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回を目処に避難訓練を実施しており、毎月の自主点検や、偶数月に夜間想定訓練も行なわれています。近隣の特別養護老人ホームと災害時避難場所の協力体制をとっています。また職員は定期的に救急救命訓練を受講しています。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好調査も参考にして職員が献立を作成しており、年に1～2回、管理栄養士の指導をいただいています。また食事や水分の摂取量もきめ細かく記録しており、体重や血圧を記した健康管理表を参考にしながら、主食の量や塩分を調整しています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔に保たれ、利用者の作品や季節感のある装飾が飾られ、家庭的な雰囲気となっています。温度や湿度、光や音も適切に調節され、居心地よく過ごせるように保たれています。西日を弱めるため遮光シートを窓に貼って光を調整しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の馴染みの家具や生活用品が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっています。壁には利用者ごとに作られたカレンダーもあります。居室の入り口には部屋が判別しやすい花や飾りを設置しています。		

※  は、重点項目。